

企画展

クロード・モネ(モンソー公園)(部分) 1876年



IN PRAISE
OF
LIGHTS
AND
SHADOWS

WESTERN PAINTING
OF
SUMITOMO COLLECTION



ジャン＝ポール・ローラン(マルソー将軍の遺体の前のオーストリアの参謀たち)(部分) 1877年

2023 3.14 TUE → 5.21 SUN

【開館時間】10:00～17:00 *入館は16:30まで 【休館日】月曜日、4月25日(火)

【入館料】一般800円、高大生600円、中学生以下無料

*本展覧会の入場料で青銅器館もご覧いただけます

*20名以上は団体割引20%、障がい者手帳ご提示の方は介添者1名まで無料

【主催】公益財団法人泉屋博古館、日本経済新聞社、京都新聞

【後援】京都市、京都市教育委員会、京博連、公益社団法人京都市観光協会、NHK 京都放送局

同時開催 青銅器館「中国青銅器の時代」

光陰礼讃

近代日本最初の
洋画コレクション



泉屋博古館

SEN-OKU
HAKUKOKAN
MUSEUM

本展のみどころ

1. 19世紀フランス絵画の光と陰 —印象派のモネと古典派ローランスの対決
2. 初期文展の花形作家たちの代表作がずらり
—藤島武二、和田英作、岡田三郎助、山下新太郎、ほか
3. 明治の知られざる画家、河久保正名や田村直一郎らの逸品を初公開

本展の趣旨

住友コレクションの一角を占める近代洋画は、住友吉左衛門友純（春翠）が明治30年（1897）の欧米視察中のパリで印象派の画家モネの油彩画2点を入手した事に始まります。

このとき購入した西洋絵画などを、明治36年（1903）に完成した住友須磨別邸（洋館）に並べることとなりますが、春翠は各部屋の用途や性格に応じた絵を飾っていくことを計画していきます。収集の手立ての一つとしたのが、パリ留学を支援していた洋画家・鹿子木孟郎を仲介者としたことでした。鹿子木は当時パリ画壇で活躍する巨匠たちの名画を住友に届け続けることとなります。その中心は、ジャン=ポール・ローランスなどフランス・アカデミーの古典派の絵画です。19世紀末のフランス絵画は、印象派の台頭とともに古典的写実派が次第に衰退していく様相を示すこととなりますが、住友洋画コレクションには同時代の印象派と古典派の作品がともに揃って収集されているところに特徴があります。その後、春翠が開いた洋画コレクションには、関西洋画壇をリードした浅井忠やその門下生たちの作品、また東京美術学校で学び明治末から大正期にパリに留学して帰朝後に日本の洋画を切り拓いた青年画家たちの作品が順次加えられていきました。

こうして収集された住友洋画コレクションは、明治維新後の近代の日本において有名な松方コレクションや大原コレクションなどの成立・公開より数10年早く成立したもので、しかも須磨別邸という限定的空間ながら一般にも公開していました。その意味では、「近代日本最初の本格的な洋画コレクション」といえるものなのです。

本展は、光を追い求めた印象派と陰影表現による実在感を追究した古典派を「光陰」と捉え、この「光陰」二つの流れから滋養を受けて展開した近代洋画の数々を、初公開の作品を含めて紹介するものです。「光陰」とは本来「歲月」や「月日」の謂いですが、明治・大正・昭和・平成という激動の時代を経て今に伝わる作品たちがくぐり抜けてきた年月にも思いを馳せていただければ幸いです。

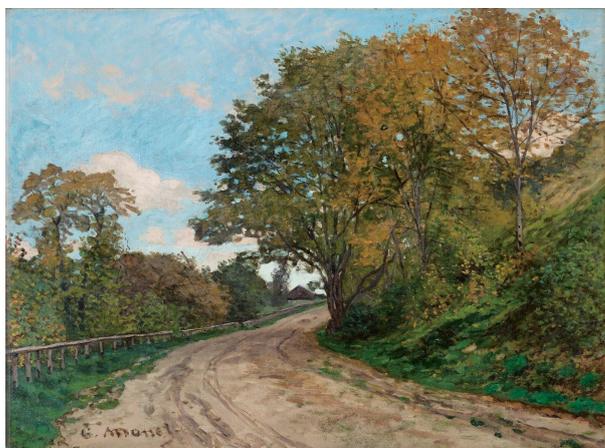
§ 1：光と影の時代—印象派と古典派

住友春翠の洋画コレクションの特色は、クロード・モネの2点の風景画をはじめとする印象派の作品と、それとは趣を異とする19世紀フランス・アカデミズムの写実表現を根幹とする古典派絵画が共に収められていることです。その作品収集に深く関わったのが洋画家・鹿子木孟郎（かのこぎたけしろう）（1874～1941）です。明治30年代に渡欧した鹿子木の留学資金を支援する代わりとして、住友は鹿子木に西洋絵画の収集を依頼。パリで、アカデミズムの巨匠ジャン=ポール・ローランスの特別な弟子となった鹿子木は、ローランス作《ルターとその弟子たち》（第二次大戦中に焼失）をはじめ《マルソー将軍の遺体の前のオーストリアの参謀たち》などの代表作を春翠のもとに届けています。

鹿子木が仲介して集められた本場の西洋画には、他にフランス外光派や英国ロイヤル・アカデミーの画家たちの作品もあり、それらは明治36年に完成した須磨別邸の各部屋に飾られました。



クロード・モネ《モンソー公園》1876年



クロード・モネ《サン=シメオン農場の道》1864年



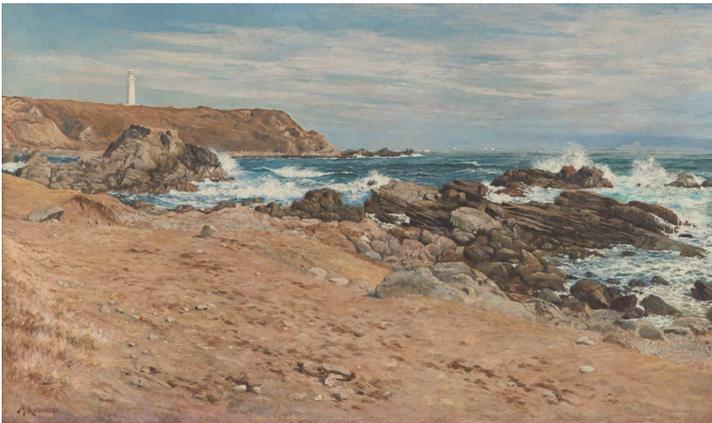
ジャン=ポール・ローランス
《マルソー将軍の遺体の前のオーストリアの参謀たち》1877年

§ 2：関西美術院と太平洋画会の画家たち

前章で紹介した鹿子木孟郎が修得したのは、19世紀フランス古典派絵画の写実表現でした。留学中の鹿子木の鍛錬は、サロンに入選した《ノルマンディーの浜》に結実しています。帰国後、関西美術院や太平洋画会、文展（文部省美術展覧会）でも中心的存在となった鹿子木は、それらの展覧会出品作から春翠好みの洋画を仲介したり、また春翠が支援した関西美術院の院長だった浅井忠の遺作を住友に届けています。

太平洋画会は、浅井らを中心に明治20年代初期に創立された明治美術会を母体として明治34年（1901）に発足した美術団体。当初は鹿子木らが移入したアカデミックな写実画の牙城として、§3で紹介する白馬会系の外光表現と対照され、明治後期の洋画界における二大潮流を形成していました。

この章では、関西美術院を牽引した浅井や鹿子木の作品を中心に、明治美術会やその後の太平洋画会の系統を汲み、明治末の文展などで活躍した画家たちを紹介します。



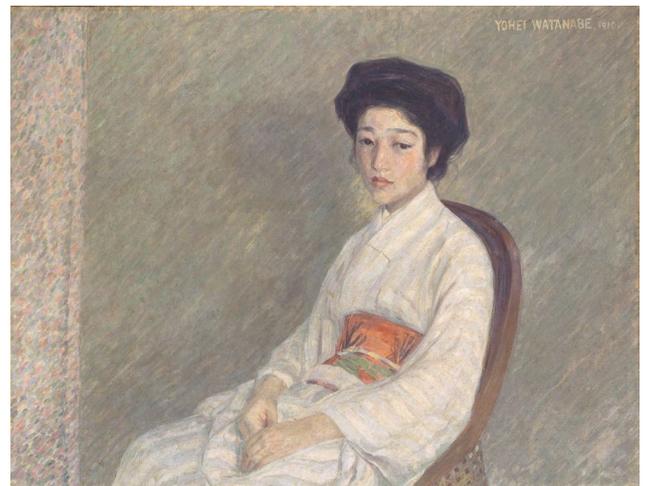
河久保正名《海岸燈台之図》1902年



浅井忠《河畔洋館》1902年



鹿子木孟郎《ノルマンディーの浜》1907年 泉屋博古館東京寄託



渡辺與平《ネルのきもの》1910年

＊特集展示「初公開！ 田村直一郎の凸凹絵画」

田村直一郎（たむら・なおいちろう）という画家については、生没年はもとより、師承関係や画歴など今のところ確たる記録は見当たらない。いずれも点景人物のいる風景画だが、作風は共通して油絵具をモチーフに沿ってネチャネチャと細かく盛り上げた、いわゆる厚塗り手法によっている。油彩による点描法が日本で使われ始めるのが明治40年代前半のことを考えると、この厚塗り技法はそれに先行するものとして注目すべきものであろう。住友春翠は田村の作品を計7件同時期に購入しており、須磨別邸の広間に掛けていた。



《武甲山入口夕陽》1905年



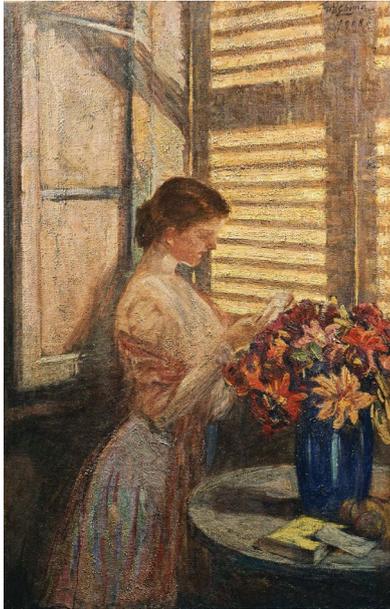
《朝陽荒川上流図》1905年

§ 3：東京美術学校と官展の画家たち

「近代洋画の父」と呼ばれた黒田清輝は、明治中期のフランス留学中にラファエル・コランに学んだ外光表現を日本に将来しました。明治26年（1893）に帰国した黒田は、外光派表現の発表の場として「白馬会」を新たに結成し、また東京美術学校西洋画科の教諭となります。この黒田に師事し、後に同校教授となった藤島武二もまた、明治末にフランスに留学して古典的写実からポスト印象派まで幅広く学びました。

東京美術学校で黒田や藤島に学んだ和田英作や岡田三郎助らは、明治30年代の白馬会を主な発表の舞台として外光表現を展開して、前章で紹介した明治美術会や太平洋画会の写実表現とは異なる新風を画壇に吹き込みました。彼らは、やはりフランス留学を経験して明治末に始まる文展でも受賞を重ね、一世を風靡しました。

この章では、白馬会や文展で活躍した画家たちを紹介します。



藤島武二《幸ある朝》1908年



山下新太郎《読書の後》1908年



岡田三郎助《五葉蔦》1909年

会期中のイベント

① 特別記念講演会 「住友洋画コレクションの特質」

【日 時】 4月22日（土） 14:00～15:30

【講 師】 三浦 篤 氏（東京大学大学院総合文化研究科客員教授、美術史家）

② スライド・レクチャー 「詳しくすぎる作品解説」

【講 師】 野地 耕一郎（泉屋博古館東京 館長）

【日 時】 3月25日、4月15日、5月13日（各土） 14:00～15:00

会場：当館講堂 定員40名／入館料のみでご参加いただけます

予約制・先着順

受付開始 2月24日（金） 11:00～ 当館WEBサイト または電話075-771-6411にて

基本情報

- 展覧会名 光陰礼讃 一近代日本最初の洋画コレクション
- 会 期 2023年3月14日（火）～ 5月21日（日）
- 開館時間 10:00～17:00 ※入館は閉館の30分前まで
- 休 館 日 月曜日、4月25日(火)
- 入 館 料 一般800円 高大生600円 中学生以下無料
※20名以上は団体割引20%
※障がい者手帳ご提示の方はご本人および同伴者1名まで無料
- 会 場 泉屋博古館 〒606-8431 京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24
<https://sen-oku.or.jp/kyoto/> TEL: 075-771-6411
- 交通アクセス 京都市バス 5、93、203、204系統「東天王町」下車、東へ徒歩200メートル
32系統「宮ノ前町」下車すぐ
JR・新幹線・近鉄電車「京都駅」から・京阪電車「三条駅」から 5系統
阪急電車「烏丸」から 32・203系統
地下鉄烏丸線「丸太町駅」から 93、204系統
地下鉄東西線 「蹴上駅」より徒歩約20分
- 主 催 公益財団法人泉屋博古館 日本経済新聞社 京都新聞
- 後 援 京都市 京都市教育委員会 京博連
公益社団法人京都市観光協会 **NHK京都放送局**

《お問い合わせ》

泉屋博古館 広報担当：坂井さおり

担当学芸員：野地耕一郎（泉屋博古館東京 館長）

TEL：075-771-6411 FAX：075-771-6099 E-mail：pr-kyoto@sen-oku.or.jp

泉屋博古館は、住友コレクションをはじめとした美術品を保存、研究、公開する美術館です。

所蔵品は中国古代青銅器をはじめ、中国・日本書画、西洋絵画、近代陶磁器、茶道具、文房具、さらには能面・能装束など幅広い分野にわたり、現在は3,500点（国宝2件、重文19件、重要美術品60件を含む）にのびります。当館事業の趣旨に賛同する住友グループ各社の支援のもと、京都・東京それぞれ地域の特性も活かしながら展覧会を開催し、当館の魅力を発信しています。



広報用画像一覧

本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、以下の作品画像をデータでお貸出しいたします。申込書のご希望の画像に☑を付し、FAXまたはメールにてお申し込みください。



クロード・モネ
《モンソー公園》1876年



ジャン＝ポール・ローランス
《マルソー将軍の遺体の前のオーストリアの参謀たち》1877年



クロード・モネ
《サン＝シメオン農場の道》
1864年



藤島武二《幸ある朝》1908年



浅井忠《河畔洋館》1902年



和田英作《こだま》1903年



鹿子木孟郎
《ノルマンディーの浜》1907年



河久保正名《海岸燈台之図》1902年



渡辺與平《ネルのきもの》1910年



岡田三郎助《五葉菖》1909年



田村直一郎《武甲山入口夕陽》
1905年



山下新太郎《読書の後》1908年

広報用画像申込書

泉屋博古館 広報担当行き

TEL：075-771-6411 FAX：075-771-6099 E-mail：pr-kyoto@sen-oku.or.jp

本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、以下の作品画像をデータでお貸出しいたします。申込書のご希望の画像に☑を付し、FAXまたはメールにてお申し込みください。

	作者・作品名	制作年	所蔵先
<input type="checkbox"/>	クロード・モネ《モンソー公園》	1876年	泉屋博古館東京
<input type="checkbox"/>	ジャン＝ポール・ローランス 《マルソー将軍の遺体の前のオーストリアの参謀たち》	1877年	泉屋博古館東京
<input type="checkbox"/>	クロード・モネ《サン＝シメオン農場の道》	1864年	泉屋博古館東京
<input type="checkbox"/>	藤島武二《幸ある朝》	1908年	泉屋博古館東京
<input type="checkbox"/>	浅井忠《河畔洋館》	1902年	泉屋博古館東京
<input type="checkbox"/>	和田英作《こだま》	1903年	泉屋博古館東京
<input type="checkbox"/>	鹿子木孟郎《ノルマンディーの浜》	1907年	
<input type="checkbox"/>	河久保正名《海岸燈台之図》	1902年	泉屋博古館東京
<input type="checkbox"/>	渡辺與平《ネルのきもの》	1910年	泉屋博古館東京
<input type="checkbox"/>	岡田三郎助《五葉蔦》	1909年	泉屋博古館東京
<input type="checkbox"/>	田村直一郎《武甲山入口夕陽》	1905年	泉屋博古館東京
<input type="checkbox"/>	山下新太郎《読書の後》	1908年	泉屋博古館東京

●御社基本情報

媒体名（URL）：

発行日／放送日：

御社名：

ご担当者名：

電話・FAX・E-MAIL：

●招待券希望枚数： 5組10名 10組20名 ばら（ 枚）

（送付先住所： ）

※お貸出しする画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。

※情報確認のため、お手数ですが校正原稿を当館へお送りください。原稿確認を行わず誤った情報が掲載された場合、当館では責任を負いかねます。

※広報用画像の掲載には、各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。

※アーカイブのため、後日、掲載誌（紙）、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。

※作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展招待券を読者プレゼント用に提供いたします。招待券希望枚数を明記してください。